知名町誌編さんだより

第６号

町の自然や歴史を本にまとめる活動
「知名町誌編さん事業」の最新情報をお届けします。

寄稿

「田皆産トラバーチンに関する一考察」

岸田善光（和泊町後蘭字出身）

皆さんは「国会議事堂の建物の一部に沖永良部島産のトラバーチンが使用されている」という話を聞いたことはありませんか？

私は小学６年生の頃、島内一周のバス旅行の折に初めて聞いて「スゲー！」と誇らしく感じたのを覚えています。

「こんな小さな島の石が国会議事堂に使われているなんて、なんて凄いことだろう！」と興奮しきりでした。

それからというもの、機会あるごとに自慢して歩いたものです。「知ってるかい？　国会議事堂の正面玄関に沖永良部の石が使われているんだぞ。凄いだろう！」という感じで。

ところが、大人になったある日、何かの雑誌でこんな記事を読んだのです。「沖永良部島のトラバーチンが国会議事堂の石材として使われている、との話があるが、根拠の無い噂で実際には石の切り出しが間に合わず使われなかった」。

「え～、あれはただのウワサ話やったん？」。私にすれば青天の霹靂。脳天に雷の一撃を食らった状態です。

そこで、自分で調べてみることにしました。考えてみれば、他人から聞いた話をただ鵜呑みにしてきただけでしたから。

図書館に通って、国会議事堂の石材に関する蔵書が無いか検索したり、司書に尋ねていくつかの本をリストアップする事が出来ました。そこに無い資料は所蔵している他府県の図書館から取り寄せてもらうなどして探し出した書籍・データは文末の通りです。

これらの中に次のような記述が見られます。

産地は田皆岬（ヤグニャ岬）で、昭和十一（一九三六）年から十五（一九四〇）年まで、戦後は二十八（一九五三）年から四十八（一九七三）年まで採掘され、岐阜県へ出荷されていた。（中略）建築材料として皇居や国会議事堂の建設にも使用された。」（知名町地名考ー沖永良部島南西の一名勝史話）

「田皆のトラバーチン採石場（昭和30年代初頭）」
撮影：芳賀日出男

しかし、国会議事堂の竣工は昭和十一（一九三六）年なので、上記の年代に採掘されたとしたら、完成に間に合いません。

また、次のような記述が見つかりました。

沖縄にはいたるところにこの種（琉球石）の石材の採石場があるが、そのなかで、議事堂の建築材を切り出したのは、沖縄本島に近い瀬底島と、宮古群島の中心の宮古島の二カ所と記録されている。」、「中央廣間壁及階段室仕上げ石材として（中略）沖縄縣産出の珊瑚石灰岩…琉球石…を瀬底島及宮古島から採取して約１萬才を使用した。この琉球石は津田元四郎技師が約一ヶ年間も琉球に滞在し萬難を排して採取したのである。

そして、残念ながら、今のところ沖永良部島のトラバーチンが国会議事堂の石材と確実に結びつく証拠を見つけることは出来ていません。

どなたか、田皆岬のトラバーチンが実際に使われたことを示す文献なり出荷伝票などの記録をお持ちでしたら、ご教示いただけないでしょうか。

果たして島のトラバーチンは国会議事堂建設に使われたのでしょうか？　使われなかったのでしょうか？　また、その話はどこから出た話だったのでしょうか？　興味の尽きない沖永良部島産トラバーチンについての一考察でした。

〈参考文献〉帝國議會議事堂建築の概要、帝國議會議事堂の建築を語る（工学博士・大熊喜邦）、日本の建築【明治大正昭和】第４巻「議事堂への系譜」（長谷川堯）、国会議事堂ガイドブック（衆議院警務部編）、新版議事堂の石（新日本出版社）、日本大百科全書ー石材１３巻（小学館）、本部町史・通史編（本部町役場）、レファレンス協同データベース（国立国会図書館提供）、勝連村誌（勝連村）、知名町地名考ー沖永良部島南西の名勝史話（先間政明）、田皆字誌（編纂委員会）、鹿児島県石材産業史（米盛弘修）

事業の経過（令和7年11月～令和8年3月）

■自然部会	「環境」聞き取り	令和7年11月25日
■自然部会	「植物利用」グループ会	令和7年12月5日
■第3回	行政部会	令和8年1月30日
■第4回	中世・近世・近現代部会	令和8年2月4日
■第4回	自然部会	令和8年2月15日
■第3回	集落・民俗部会	令和8年2月20日
■第4回	知名町誌編さん委員会	令和8年3月26日

連絡先：知名町誌編さん室（知名町図書館２階）
☎84-3166（森田・村山）　午前９時～午後５時（平日）